

沼津工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	国語Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	2019-491		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	制御情報工学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『新編現代文B』『新編現代文B 学習課題ノート』（東京書籍）『新訂最新国語便覧』（浜島書店）					
担当教員	(国語科 非常勤講師) ,平 裕人					
到達目標						
1. 近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現することができる。 2. 思考力や想像力、認識力を伸ばし、感性や情緒を育むことができる。 3. 自分の考えを論理的に整理し、伝えることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現することができる		近代以降の様々な文章を的確に理解することができる		近代以降の様々な文章を的確に理解することができない	
評価項目2	思考力や想像力、認識力を伸ばし、感性や情緒を育むことができる		思考力や想像力、認識力を伸ばすことができる		思考力や想像力、認識力を伸ばすことができない	
評価項目3	自分の考えを論理的に整理し、伝えることができる		自分の考えを論理的に整理することができる		自分の考えを論理的に整理することができない	
学科の到達目標項目との関係						
【本校学習・教育目標（本科のみ）】 4						
教育方法等						
概要	論理的な文章や文学的な文章に加え、現代の社会生活で必要となる実用的な文章も取り上げ、文章などを読んで考え、評価、批評し、自分の考えを効果的に表現する活動、つまり情報を使いこなす活動を、話すこと・聞くこと・書くこと・読むことの言語活動を通して行う。					
授業の進め方・方法	検定教科書所載の作品の読解を基礎とし、その上で個人個人がその内容をどう捉え、自己にどう反映していくかを考えさせるために、プリント教材を使用しながら、個人・グループでの調査・討議活動、作成した資料をもとにした発表・批評など多岐にわたる活動を行う。					
注意点	1.評価については、評価割合に従って行います。ただし、適宜再試や追加課題を課し、加点することがあります。 2.中間試験を授業時間内に実施することがあります。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 教育目標・授業概要・評価方法の説明（表現）自己紹介スピーチ		授業の全体像を理解することができる 自分について適切な語彙・語句を用いて表現できる	
		2週	随想 村田沙耶香「こそめスープ」		本文の読解を通し、他者との関係性について考えを深めることができる	
		3週	随想 俵万智「さくらさくらさくら」 本文理解		日本人のさくらに対する特異な感覚を理解することができる	
		4週	随想 俵万智「さくらさくらさくら」 応用		自分自身の桜に対する感覚を確認し、発表することができる	
		5週	小説 吉本ばなな「みどりのゆび」 本文理解		小説を読む楽しさを味わうことができる	
		6週	小説 吉本ばなな「みどりのゆび」 応用		自分自身の体験を振り返りながら、家族について考えることができる。	
		7週	小説 井上ひさし「ナイン」 本文理解		小説を読む楽しさを味わうことができる	
		8週	小説 井上ひさし「ナイン」 応用		自分自身の体験を振り返りながら、友情について考えることができる	
	2ndQ	9週	評論 長沼毅「生命とは何か」 本文理解		筆者の考えを論理的に理解することができる	
		10週	長沼毅「生命とは何か」 応用		自分が「科学的」であるためにどのような姿勢が必要か考えることができる	
		11週	評論 河合隼雄「『ふしぎ』ということ」 本文理解		筆者の考えを論理的に理解することができる	
		12週	評論 河合隼雄「『ふしぎ』ということ」 応用		身のまわりの不思議と思う事象について考えることができる	
		13週	詩 中原中也「1つのメルヘン」 詩の表現について学ぶ		多様な詩の表現について理解することができる	

後期		14週	詩 吉野弘「I was born」 詩の表現を味わう	多様な詩の表現を味わうことができる
		15週	詩のまとめ(表現) 詩の表現について考える	身のまわりにある多様な詩について自分なりに表現の工夫を指摘できる
		16週		
	3rdQ	1週	短歌 「信濃路」 短歌の表現について学ぶ	短歌の歴史・特徴・形式について理解することができる
		2週	短歌(表現) 短歌を詠む	短歌の表現技法に注意しながら自分で短歌を詠むことができる
		3週	短歌(表現) 相互批評会	他人の短歌を鑑賞し自分の意見を持つことができる
		4週	小説 井伏鱒二「山椒魚」 本文理解	小説に見られる寓意を味わうことができる
		5週	小説 井伏鱒二「山椒魚」 応用	小説に見られる寓意を自分自身に置き換えて考えることができる
		6週	小説 石田衣良「旅する本」 本文理解	本という存在について理解を深めることができる
		7週	小説 石田衣良「旅する本」 応用	自分にとっての本の存在について考えることができる
		8週	評論 鷲田清一「思考の肺活量」 本文理解	具体例やキーワードに注意し、筆者の問題意識・主張を理解できる
	4thQ	9週	評論 鷲田清一「思考の肺活量」 応用	論理展開上の特徴(二項対立)、比喻表現などに注意して読解することにより、論理的文章のしくみを理解できる
		10週	評論 廣淵升彦「安心について」 本文理解	安心とはどういうことか理解することができる
		11週	評論 廣淵升彦「安心について」 応用	自分にとっての安心について考えることができる
		12週	(表現) 漢字に親しむ	漢字の成り立ちや本来の意味などについて調べ、理解することができる
		13週	木内昇「分からないから面白い」 本文理解	「分からない」ことのもつ意義について、文章表現に沿って筆者の主張を理解できる
		14週	小関智弘「楽に働くこと、楽しく働くこと」 本文理解	働くことの意義について自分なりに考えることができる
		15週	授業全体の振り返り	自分の生き方について考え、自分の言葉で語ることができる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	2	前9,前11,後8,後10,後13,後14
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	2	前4,前10,前12,後9,後11
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	2	前2,前3,前5,前6,前7,前8,前14,前15,後1,後4,後5,後6,後7
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	2	後1,後12
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	1	後12
				社会生活で使われている故事成語・慣用語の意味や内容を説明できる。	1	後12
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	1	後15
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	2	後15
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	2	後15
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	2	後15
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	2	前1,後15
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	1	後3
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	1	後3

分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2	前14	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2	後3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	後3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	後3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2	後3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	前13,前14,前15,後3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	2	後3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	後3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	2	後2,後10	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2	後2,後10	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2	後2,後11	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	2	前10	
結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	2	後11					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	課題	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	10	0	0	10	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
分野横断的能力	20	10	0	0	10	0	40